

□12月3日主日礼拝説教短縮版(隅野徹牧師)

「集められる自由な人々」(詩編47:1~10)

今回注目すべき言葉として10節を選ばせていただきます。前半に「諸国の民の中から、自由な人々が集められ、アブラハムの神の民となる」という言葉が出ます。これはユダヤ人の勢力が増すということが預言されているのでは全くありません。「自由な人々」とあります。強制されてではなく、力で押さえつけられてでもなく自由に、つまり自らの意思で選んでアブラハムの神の民となるのです。

では何によって諸国の民が自発的な思いをもって、アブラハムの神の民となるのか。それは神の御子・救い主イエス・キリストを自らの意志で信じ、そして愛することによってなされるのです。アブラハムの末としてお生まれになったけれども、ただの人間ではない神の子イエス・キリストを、諸外国の人々が慕いもとめるようにして集まる、ということが預言されています。そうして集められた人々、つまりクリスチャンは神のものであるとともに、地の盾であるということも語られます。イエス・キリストはアブラハムの直接の子孫だけの救い主ではなく、世界の救い主なのです。

私自身も日本古来の宗教がある中で、どうしてキリストを信じ受け入れたのかというと、もちろん神ご自身に導いていただいたからで間違いありません。一方人間的な側面から見ると、私のキリストとの出会いは誰かに強制されたり恐怖で脅されたのではなく、全ては自分の意志です。聖書が示す罪が自分にもあり、そこから救われるには人間としてこの世に来られ十字架に架かって身代わりとなってくださった、神の子イエス・キリストを信じるしかない、と示されたからです。

クリスマスは、神の子イエス・キリストが救い主としてこの世に来てくださったことを祝う時ですが、世界の多くの人が自由な人々としてキリストの愛のもとに集うことができることを、切に願っています。(終)